

アグリ筑西

2016 12月号



朝晩冷え込むようになってきました。

インフルエンザなど流行る季節ですので、お気を付けください。

県西農林事務所 経営・普及部門

(筑西地域農業改良普及センター) 発行

Tel : 0296(24)9206

Fax : 0296(24)6979

筑西地域農業青年リーダー研修会が開催されました

10月18日(火)、筑西地域の4つの4Hクラブで構成している筑西地域農業青年クラブ連絡協議会が、なめがたファーマーズヴィレッジで先進地研修を行い、4Hクラブ員と農業学園生17名が参加しました。

研修会では、まずファーマーズヴィレッジができるまでの「生産者・地域・企業・行政」の連携の話のうちが、その後やきいもミュージアム、



やきいもファクトリーを見学しました。参加者からは、「ミュージアムが面白い」「筑西地域だったら何ができるのか」といった声があり、楽しくかつ真剣に経営について考える機会になりました。

当部門では、次年度もクラブ員にとって有意義な研修会が開催できるよう、4Hクラブおよび協議会の活動を支援していきます。

営農情報 イネ縞葉枯病の対策について



収穫後の田んぼの「ひこばえ(再生イネ)」に、白っぽくよじれたり、黄色く枯れたりした葉がありましたか？

⇒それは**イネ縞葉枯病**です！

来年のイネ縞葉枯病の発生を抑えるために、ウイルスを媒介するヒメトビウカの生息密度を減らしましょう。

ひこばえはヒメトビウカの生息地となるだけでなく、ウイルスの伝染源となるため、田んぼは早めに耕起しましょう。また、ヒメトビウカは、幼虫が畔や農道のイネ科雑草の中で越冬します。餌となる雑草をなくせば、ヒメトビウカが冬を越すことができず、来春成虫になる数を減らすことができます。

冬の間でも枯れずに生育するイネ科雑草(例：写真)は除草剤でしっかり枯らしておきましょう。

このような雑草は要注意！

(これ以外にもたくさんの種類があります)



グリーンライフネットワーク先進地研修会開催



11月7日(月)、筑西地域グリーンライフネットワークが、栃木県那須塩原市の体験館“TRY” TRY “TRY”で、酪農経営とグリーンツーリズムを合わせた取組を研修しました。

この体験館は、「命と食をつなぐ」をテーマに、ソーセージづくりや乳製品の加工、牧場の見学を中心としたグリーンツーリズムの場を提供しています。館長は、「別荘地化した那須塩原市でも酪農を続けていきたい、消費者や子供たちに命と食がつながっていることを伝えたいという思いから始めた取組である。」と話されていました。昭和39年頃から別荘地化が進み、別荘利用者から「臭い」とクレームもあり、体験は、酪農のことを知ってもらいたいという地道な取組から始まり、現在では、ツアー旅行に組み込まれる等、多くの人を訪れる施設となっています。

グリーンライフネットワーク会員からは、「研修した加工品のことや、食と農、命をつなぐ話を自分の地域でも広めたい」との声が聞かれ、有意義な研修となりました。今後も、普及センターでは農家女性の活躍を支援していきます。



⚠️ 農産物盗難防止ポスター ご活用ください! ⚠️

毎年悩まされるこだまスイカ盗難の対策として、「こだまスイカ産地活性化協議会」では筑西市・桜川市・筑西警察署・桜川警察署の協力の下、防犯ポスターを企画・作製しました。

ポスターは12月中旬にこだまスイカ産地活性化協議会員の種苗店を通じて配布されます。また、JA北つくばこだま西瓜部会でも統一デザインのものを作製し、部会員に配布する予定です。

このポスターは、A4サイズで防水紙を使用し、屋外での使用に適していますので、ハウスや畑の周辺に掲示して防犯意識を高めましょう!



防犯ポスター
左：筑西市
右：桜川市

～カキ「太秋」を出荷しました!～

下妻市では、白紋羽病汚染ほ場における梨の代替品目として柿「太秋」が導入されつつあり、今年も、10月14日から11月4日まで6名の生産者が「太秋」を出荷しました。「太秋」はサクサクとした食感が特徴の甘柿で、梨の平棚を利用することで大玉化が可能ですので、下妻の新たな差別化商品となることが期待されます。



普及員のひとりごと ～ 廣瀬 充香 ～

落ち葉が風に舞う季節となりました。我街の銀杏並木も美しい黄色に染まり始めましたが、私は紅葉より銀杏の実が気になります。私は8月から新任となりましたので、なにぶん初めての事が多く、皆さまに教を請うこともたくさんありますが、新しい気持ちで全力を尽くす覚悟でいます。よろしくお願いたします。

皆様からのご意見・情報をお待ちしております。